

第1節 円滑な食品アクセスの確保

1 現状の課題と政策の方向

我が国の食品アクセスにおける課題としては、**1. 高齢化と人口減少**：高齢化や人口減少により、特に地方や過疎地域で食品を購入するのが困難な「買物困難者」が増加。**2. 交通インフラの不足**：公共交通機関の廃止や減便により、特に高齢者や車を持たない人々が食品を購入するのが難しい。**3. 小売店の減少**：地元の小売店やスーパーの閉店が相次ぎ、食品を購入できる場所が減少。**4. 経済的な問題**：経済的に困窮している人々が増え、食品を購入するための十分な資金がない。などがある。

これらの課題における施策としては、**1. 地域の関係者の連携**：コミュニティバスや移動販売車の運行、買い物代行サービスの提供などを行う取り組み。**2. 物流の効率化**：産地から消費地までの幹線物流の効率化や、地域に応じたラストワンマイル物流の強化。**3. フードバンク活動の支援**：未利用食品を必要とする人々に届けるフードバンク活動の支援と普及、などの対応を行っている。

2 関東管内の取組状況

(1) フードバンク活動の支援

(取組の概要)

フードバンク活動に関係する方々が取り組まれている活動内容を紹介し、多くの方に関心を持っていただくとともに、同活動への参加、つながりを持つきっかけとなることを目的に令和6（2024）年2月28日に食品関連事業者、フードバンク団体等各関係者を集め、「フードバンク活動促進のための交流会」を開催した。各関係者の方から、具体的なフードバンクとの取組内容、課題等について説明した。

続いて意見交換が行われ、食品関連事業者からは、「フードバンクとのマッチングで苦労した。」、フードバンク団体からは「保管場所等のインフラ整備が困難。」、「職員・ボランティアが足りない。」、「資金確保が難しい。」などの意見が出るなど活発な情報交換が行われた。その後、対面参加者による交流会が行われ、新たなつながりの場となった。



【取組事例発表時会場の様子】



【対面参加者による交流会の様子】

用語の解説

「フードバンク」とは、食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体・活動を呼ぶ。

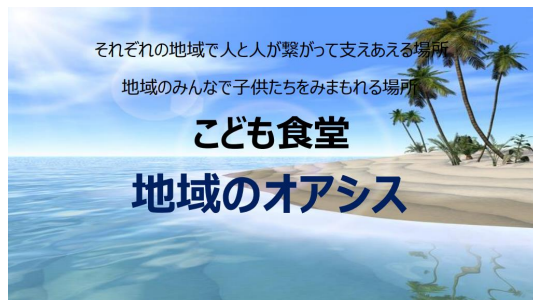
(2) 子ども食堂の支援

(事例) 埼玉県子ども食堂ネットワーク

埼玉県子ども食堂ネットワークは、埼玉県内の子ども食堂間の連携や情報交換、食材のシェア、食堂を作りたい方々へのサポート、行政との連携、子ども食堂マップの作成などを行っている。

子どもの貧困対策としての地域の居場所づくりとして、「子ども食堂」、「無料塾」「プレイパーク」があげられる。

子どもたちは、地域の人々に支えられることで、「自分は皆から愛されている大切な存在なのだ」という自己肯定感を得て「生きる力」「がんばる力」を得るサポートをしている。



●全国の子ども食堂

(NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ調査 令和2年2月)



●埼玉県の子供の居場所

(埼玉県「子供の居場所」実態調査 令和2年8月)

